

10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2) (FC5899, FC5260)
ファームウェア

バージョン: 10240310

目次

<はじめに>

1. 対象アダプタ
2. サポートされている AIX/VIOS のレベル
3. ファームウェア更新に関する注意
4. ファームウェア更新時間
5. ファームウェアレベルの確認方法
6. ファームウェア更新に使用するファイル
7. ファームウェア更新方法
8. ファームウェアレベルの確認
9. ファームウェアファイルの削除

<はじめに>

本更新手順は 10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2) のファームウェアを最新レベルに更新するために提供されています。

お客様御自身で最新のファームウェアレベルに更新することを推奨致します。
ファームウェアファイルおよび更新方法は、下記 Web サイトで入手できます。

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/EP8000/machinecode/machinecode.html>

1. 対象アダプタ

表 1.1 対象アダプタ

項目	形名	品名
1	THE-7001FC5899	10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2)
2	THE-7001FC5260	10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2 LP)
3	THE-8202FC5899	10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2)
4	THE-8205FC5899	10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2)

2. サポートされている AIX/VIOS のレベル

10/100/1000 BaseTX アダプタ (4 ポート PCIe2) をサポートする全てのレベル。

3. ファームウェア更新に関する注意

- (1) ポートが Etherchannel のメンバに含まれていると、ファームウェアを更新することができません。全てのポートの Etherchannel の解除、または Etherchannel のメンバから外してから更新をお願いします。
- (2) まれに更新が失敗する場合がありますが、2, 3 回更新を繰り返してください。
- (3) お客様の業務が停止していることを確認し、ファームウェアの更新を行なって下さい。
- (4) ファームウェア更新中にシステム装置の電源を off しないで下さい。
- (5) AIX の場合は root ユーザで、VIOS (Virtual IO server) の場合は、padmin ユーザで作業を行なって下さい。

4. ファームウェア更新時間

約 5 分/アダプタ

5. ファームウェアレベルの確認方法

- (1) パーティションが VIOS の場合は、oem_setup_env を入力し、制限シェルを抜けます。パーティションが AIX の場合は、本操作は不要です。

```
$ oem_setup_env  
#
```

制限シェルを抜けると、コマンドプロンプトが”#”になります。

- (2) lsmcode コマンドで、すべての Ethernet アダプタ (デバイス番号が entX) のファームウェアレベルを表示します。

```
# lsmcode△-A△|grep△ent  
ent0!e414571614102004.10240180  
ent1!e414571614102004.10240180  
ent2!e414571614102004.10240180  
ent3!e414571614102004.10240180  
ent4!e4148e1614109204.20120310  
ent5!e4148e1614109204.20120310  
ent6!e414571614102004.10240310  
ent7!e414571614102004.10240310  
ent8!e414571614102004.10240310  
ent9!e414571614102004.10240310
```

- (3) (2) で表示されたデバイスのうち、!と. に囲まれた文字列が e414571614102004 のデバイスが本手順書の対象です。また、. の後ろの 8 桁の数値がファームウェアレベルを示しています。ファームウェアレベルが最新 (10240310) の場合は、更新不要です。上記のケースでは、ent0~ent3 が更新対象となります。

6. ファームウェア更新に使用するファイル

- (1) 更新ファイル e414571614102004.10240310.bin を以下サイトより入手してください。

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/EP8000/machinecode/machinecode.html>

- (2) 更新ファイルを対象 LPAR の/etc/microcode/へコピーします。その際、ファイル名を e414571614102004.10240310 に変更してください（拡張子.bin を削除します）。
- (3) 下記コマンドでファームウェアファイルの sum を確認します。sum の値が 52105 以外の場合は、ファームウェアの更新を中止してください。

```
# sum△/etc/microcode/e414571614102004.10240310
52105 512 /etc/microcode/e414571614102004.10240310
```

7. ファームウェア更新方法

ファームウェア更新方法について記述します。

- (1) 更新対象のアダプタのデバイスが Etherchannel のメンバに含まれている場合は、Etherchannel の解除または、更新対象デバイスを Etherchannel のメンバから外します。
- (2) コマンドライン上で下記コマンドを入力します。
10/100/1000 BaseTX アダプタ（4 ポート PCIe2）は、1 枚当たり 4 つのデバイス番号が割り当てられます（例：ent0～ent3）そのうちのどれか 1 つのファームウェアを更新すると、他の 3 つのデバイスにも更新が反映されます。

```
# diag△-cd△ent0△-T"download△-f"
```

```
Installation of the microcode has completed successfully.
The current microcode level for ent0, ent1, ent2
and ent3 is 10240310.
```

ファームウェア更新が成功すると、左記のメッセージが表示され、10240310 に更新されたことを示す

```
Please run diagnostics on the adapter to ensure that it
is functioning properly.
```

ファームウェアの更新時間は約 1 分です。更新が完了すると、上記のメッセージを表示します。更新対象のアダプタが複数枚存在する場合は、すべてのアダプタのデバイスに対して(1)、(2)を実施します。

ファームウェアの更新が失敗し、上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージごとに以下の対処法を実施してください。ここにないメッセージが表示された場合は、(2)を再度実施してください。

<エラー例 1>

以下のメッセージが表示された場合は、4 ポートすべてが etherchannel のメンバに含まれています。再度(1)から実施してください。

```
# diag -cd ent8 -T"download -f"
An error occurred connecting to the device driver.
The device may not exist or may not be
configured. Contact the service support
structure for further assistance.
```

```
Installation of the microcode has not completed successfully.
```

A software error occurred. Contact the service support structure for further assistance.

<エラー例 2>

以下のように何のメッセージも表示されないときは、いずれかのポートが etherchannel のメンバに含まれています。再度(1)から実施するか、AIX をリブートしてください。AIX のリブートでも、ファームウェアは正常に更新されます。

```
# diag -cd ent8 -T"download -f"  
#
```

8. ファームウェアレベルの確認

“5. ファームウェア・レベルの確認方法”を参照願います。
ファームウェア更新後に AIX/VIOS をリブートする必要はありません。

9. ファームウェアファイルの削除

- (1) ファームウェアファイル/etc/microcode/e414571614102004.10240310 を rm コマンドで削除します。
- (2) パーティションが VIOS の場合は、[Ctrl]+[d]キーを入力し、制限シェルに戻ります。
パーティションが AIX の場合は、本操作は不要です。

株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部 2020年7月

(c) Hitachi, Ltd. 2020 All rights reserved.